

# 地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/3

## 第1問

5 10 15 20 25 30

- (1)1960年にコンゴは多くのアフリカ諸国とともに独立したが、旧宗主国ベルギーが鉱物資源に富むカタンガ州の分離独立を図り介入したため内戦が激化し、国際連合が介入した。フランス人入植者が多かったアルジェリアの独立戦争では、フランスは軍事費負担や国内の混乱に苦慮し、1962年にドゴールが独立を認めた。イギリスの分断策でイスラーム教徒とヒンドゥー教徒の対立が激化し分断国家となっていたパキスタンとインドの間では、カシミール地方の帰属をめぐって第2次印パ戦争が勃発した。またインドは国境対立から中華人民共和国と軍事衝突した。冷戦を反映し分断されたベトナムでは、親米のベトナム共和国内で成立した南ベトナム解放民族戦線が、中ソが支援するベトナム民主共和国と連携して内戦が起こり、1965年からはアメリカが北爆を行いベトナム戦争は激化した。
- (2)植民地・半植民地は国際分業のもと原料や資源の供給地、列強の製品市場として開発され、独立後もIMFとGATTを軸とする自由貿易体制下で不利な貿易条件と低開発を強いられ、先進国との格差に苦しんだ。アジア・アフリカの加盟国が増えた国際連合は、この南北問題に注目し、是正のため国連貿易開発会議を発足させた。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

(1)

(a)ネロの迫害を除き帝国は信仰に寛容だったが、3世紀の危機で帝国の分裂が進むと信徒を度々迫害した。専制君主政を始めたディオクレティアヌスは4世紀に大迫害を行ったが、コンスタンティヌスはキリスト教を公認し、テオドシウスは異教を禁じて国教化した。

(b)コンスタンティヌスが開催した教義の統一を図るニケーア公会議では、父なる神と子たるイエスを同質とするアタナシウスの説が正統とされ、イエスの人性を強調するアリウスの説は異端とされた。

(c)アリストテレス

(2)

(a)トゥグリル=ベク

(b)西欧による第4回十字軍は、ヴェネツィア商人の先導でビザンツ帝国の都コンスタンティノープルを占領してラテン帝国を建てた。

(c)シーア派のサファヴィー朝を撃退し、またマムルーク朝を滅ぼしてシリアやエジプトを領有し、メッカやメディナの保護権を得た。

(3)

(a)中国文化の保護者として士大夫を動員し、『四庫全書』などの大規模な編纂事業をおこし、儒学など伝統的学問の保護・振興を図る一方、反満洲的な図書を選別・摘発して禁書とし、弾圧を行った。

(b)学問の名称 考証学

学者の名称 黄宗羲 (顧炎武も可)

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 3/3

第3問

5 10 15 20 25 30

- |    |                    |
|----|--------------------|
|    | (1)属州              |
|    | (2)高句麗             |
|    | (3)ジャムチ (站赤)       |
|    | (4)イヴァン3世          |
| 5  | (5)ワッハーブ           |
|    | (6)サティール           |
|    | (7)劉永福             |
|    | (8)(a)フランス (b)イギリス |
|    | (9)サパタ             |
| 10 | (10)サイド            |